

## 今年度の【クリスマス会・新年会】は中止、創立 30 周年（2022 年 7 月）式典予定

コロナ禍で会員お集りの会合（クリスマス、新年会、総会）が 2 ケ年にわたり中止を余儀なくされており、皆様方の元気なお姿をお互いに確認したり、楽しいお食事、お話の機会が無いままに年も暮れようとしております。

3 回目ワクチンの接種計画も示されましたが、市町村単位のスケジュールはこれからで誠に残念ながら、お集りの会合はしばらく開催を控えざるを得ない状況が続いております。当協会の運営委員会を 11 月 19 日に開催し、クリスマス・新年会は中止することを確認し決定いたしました。

平成 4 年(1992 年)7 月に福島日仏協会が設立され、平成 23 年 11 月一般社団法人を設立、令和 4 年(2022 年)7 月には創立 30 周年目を迎えようとしております。この間、会員の皆様方におかれましては協会活動に対しまし

て格別な温かいご支援、ご協力をいただいで来ております。会員数は 101 名(内法人 13 社)の団体です。

来年 7 月に創立 30 周年を迎える記念式典開催について運営委員で話し合いましたところ、節目の式典でもあり、先ずは年明けにも役員会を開催して御意見を述べていただき「日時・会場・催物等」案を固めてから正式な行事のご案内をすることとなりました。7 月は参議院議員通常選挙も控えており、日程等も支障のない選択をして大勢の会員にお集まり頂き賑やかな会合となるよう努めて参ります。その頃には、コロナ感染者数も沈静化して不安の無い日常となっている事を願うばかりです。一般会員様はじめ、会話教室の受講会員様、料理教室の受講会員様にも是非ともご参加いただきたいと思っております。以上、事務局からの連絡、報告でございます。

## ニース

5 年前に冬の寒い中カーニバルを見るためにニースへ行ったことがある。南仏といってもやはり冬は寒い。海のそばのアパートマンを借りて滞在した。その前年の夏にニースの海岸通りを暴走車が走り、70 人の死傷者を出したので、ニースのカーニバルを控えて警察の警備が厳しかった。カーニバルには観覧席があるが、それらはすべてネットで予約可能である。チケットを手に入れて寒い中カーニバルの行列を楽しんだ。また折角の機会なのでニース・オペラ座でのオペラを鑑賞した。オペラ座はアパートマンから 170 歩の所にある。その夜の演目はチャイコフスキーの「エフゲニー・オネーギン」であった。しかし、オペラはロシア語で、字幕はフランス語なのでさっぱり理解できなかった。

ニースからの近郊へのバスの運賃は驚くほど安い。ニースからマントンまで 30km もあるのに、運賃はわずか€1.50 である。この安い運賃で滞在中にマントン、カンヌ、アンティープ、ヴィルフランシュ=シュル=メールなどに小旅行を楽しんだ。バスに乗ると「Prochain l'arrêt (次の駅)…」というアナウンスが頻繁にされるが、“ほしがれい”としか聞こえない。

歳をとってくると、フランス料理を食べるのは大変になってきて、ベトナム料理とかアジア系の簡単な食事をするようになった。ニースの街はずれに L'Inattendu Restaurant というレストランがある。元来は惣菜店であったが、レストランも併設している。レストランと言っても日本風に言えば食堂である。そのシェフ Jose Halimi は昔東京のプリンスホテルで働いていた。息子は日本生まれで、13 年間日本に滞在したという。トラムに乗って、ランチを食べに行った。その息子が迎えてくれて、予約席のカードをはずして席を空けてくれた。日本人に合う、なかなかおいしい料理で、お昼は地元の人たちで賑わっていた。滞在中 2 回訪れた。

ニースの夕陽は海に沈むのではなく山に沈む。

ニースにあって福島にないもの、それは乞食である。

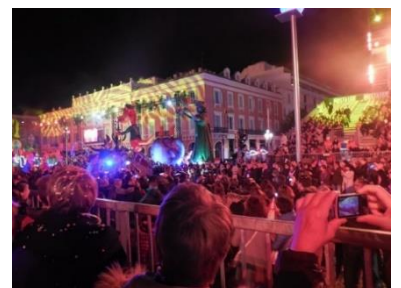
土屋敦雄 (会員)



アパートマンの窓からの眺め



アパートマン



Night parade

## 私のフランス語日記 *Mon journal français*

C'est déjà novembre. Nous appochoons de l'hiver. Il fait de plus en plus froid matin et soir. J'aimerais rester à la maison...

C'est dans un quartier résidentiel que j'habite.

Il y a beaucoup d'oiseaux car il y a des rivières et des montagnes basses à côté de chez moi. Par exemple, moineau, hirondelle, rossignol, coucou, milan, tourterelle, corbeau etc. Le printemps et l'été ont passé, à l'automne, les chants des oiseaux ont diminué. Mais, ils chantent toujours perchés sur les toits et les fils électriques.

Chaque fois que j'entends les oiseaux chanter, je pense toujours que j'aimerais comprendre le contenu de leurs conversations. Si je communiquais avec eux, ce serait amusant. Et je me souviens d'une histoire qui s'appelle « Kikimimizukin ».

(C'est le résumé simple)

Il était une fois un vieil homme. Parce qu'il a sauvé un renard y il a reçu une capuche. Lorsqu'il se couvre avec ce capuche, il peut comprendre les conversations des animaux.

Un jour, il a appris la cause de la maladie de la fille d'un riche, c'était grâce à la conversation des corbeaux. Il l'en a informé. Lorsque le riche a supprimé la cause de la maladie, sa fille a guéri. Le riche lui a donné une récompense.

Depuis que je l'ai lu quand j'étais petite, je pense que je veux une capuche. L'autre jour, j'ai vu une émission. C'était l'émission sur l'étude de la palore des oiseaux. Par exemple, la mésange. Leur chant a environ 200 variations. Le chant du mâle et de la femelle, il semblerait que ce soit des paroles. On ne peut entendre que des sons, mais il y a un sens. Une étude récente monte qu'il y a des noms et des phrases dans leurs conversations. C'était une émission intéressante.

Mais, ce que je veux faire c'est une conversation en japonais. C'est-à-dire que je voudrais leur parler en japonais.

Donc je pense en écoutant le chant des oiseaux ce matin aussi que j'aimerais bien pouvoir avoir une conversation avec eux.

C'est peut-être le tour de « Doraemon » plutôt que la capuche magique. Je me demande si je vais aller au musée départemental pendant mon prochain congé...

Mitsue KANNO

もう11月である。冬が近づいている。朝晩だんだん寒くなってきた。自宅に引きこもりたい…。

私が住んでいるのは住宅地である。

近くに川や低い山があるので、鳥たちがたくさんいる。例えば、スズメ、ツバメ、ウグイス、カッコウ、トビ、キジバト、カラス等々。春、夏が過ぎて秋になり、鳥のさえずりが少なくなった。でも、彼らはいつも屋根や電線にとまってさえずっている。

鳥のさえずりを聞くといつも思うことがある。彼らの会話の内容を私は知りたい。彼らとコミュニケーションが取れたらおもしろいだろう。それで私は「ききみみずきん」の話の思い出す。

(簡単なあらすじ)

昔むかしあるところにおじいさんがいた。彼は、キツネを助けてお礼に頭巾をもらった。頭巾をかぶると動物たちの会話が分かるようになった。

ある日、長者の娘の病気の原因をカラスたちの会話の中で知った。彼はそれを長者に教えた。長者が原因を取り除くと、娘は回復した。長者はおじいさんにほうびを与えた。

私は小さい頃にそれを読んで、「ききみみずきん」をいまだに欲しいと思っている。



先日、あるテレビ番組を見た。鳥の言葉の研究についての番組だった。例えばシジュウカラ。彼らのさえずりは約200パターンある。オス、メスのさえずりが言葉になっているらしい。人間には音としてしか聞けないが、それぞれに意味がある。最近の研究では、さえずりの中に名詞や文章があることが分かった。興味深い番組だった。

でも、私がしたいのは日本語に変換された会話である。つまり、彼らと話してみたいのだ。だって、いろいろなことが聞けそう。

なので今朝も鳥のさえずりを聞きながら思うのである。彼らと会話できたらなあ。

これは「頭巾」よりも「ドラえもん」の出番かもしれない。今度の休みに県立美術館に会いに行こうかな。

(会話教室受講生 菅野光江)

次回は、佐藤敏雄さんお願いします！

## 「私のフランス回想録」

ボンジュール！アンシャンテ！今年夏から福島日仏協会の運営委員を仰せつかりました福島テレビの遠藤衛と申します。微力ながら会の発展にお役に立ちたいと存じます。今後ともよろしく願いいたします。

《はじまりは 2002 年》

さて、この原稿を執筆するにあたり古いアルバムを引っ張り出してみた。サッカー日韓 W 杯が開催された 2002 年の日付の写真、そこにはまだ若い私と妻、そして美しいパリの街並みが写っている。19 年前、ガイドブック片手に自由気ままに街を散策した私たち。

◇オペラ座…「この地下に怪人がいたのか…」

◇ルーブル美術館…「モナ・リザの前の人ばかりもすごい、ナポレオンの戴冠式デカッ！」

◇ヴェルサイユ宮殿…「絢爛豪華！ここまで贅を極めていたら市民の反感買うのも当然か…」

◇ムーラン・ルージュ…「実に華やかで色っぽい。ロートレックが毎日通っていたというのも頷ける」

かくして、歴史的建造物に圧倒され、名画の数々に魅了され、美味しい食べ物に胃袋をつかまれた。帰りはエールフランスがストでまさかの欠航、何とか JAL に振り替え帰国の途へ。必要以上に長時間空港に滞在したことも、今となっては良い思い出である。

《2004 年、再びかの地へ》

すっかりパリの虜になった我が家は 2 年後にも再訪、花の都を満喫したのだった。この時、出会ったものが 2 つ。◇今では日本各地に店を構えるパン屋「メゾンカイザー」、パリで一番美味しいと評判のクロワッサンは格別だった。セボン！！

◇オペラ座近くではひと際にぎわう店を発見。日本ではまだ無名に近かった「ZARA」、私も釣られてシャツを購入したが袖の長さに欧米人との体格の差を痛感。

「ブーランジェリー」に「ファストファッション」…その後、日本でも耳にするようになった衣食文化の先駆けが確かにそこにはあった。

《旅の原点は 1982 年》

フランスと言うともう一つ思い起こす記憶がある。500 円硬貨が誕生し東北新幹線が開業した 1982 年—中学 2 年生の春休み、「ヨーロッパに行ってみないか？」両親から思いがけない提案を受けた私は「若人の翼」のようなツアーに参加しイギリスのとある家庭に 1 週間ホームステイ。帰りにフランスに立ち寄り、パリ観光を楽しんだ。シャンゼリゼ大通りにモンマルトルの丘、すれ違うのはソフィー・マルソーのようなパリジェンヌ…当時は丸刈りの野球少年だった私にとってそこは全くの別世界、刺激と感動の連続だった。「旅は人生を豊かにしてくれる」そんな思いは、この時に芽生えたような気がする。



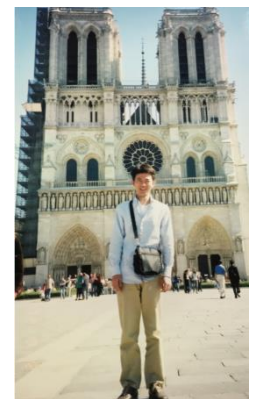
オペラ座



ヴェルサイユ宮殿



ムーラン・ルージュ



ノートルダム大聖堂

《時は流れ 2021 年》

時は流れ今年、私の長女も中学 2 年生になった。かつて私が味わった異文化の魅力を娘にも体感させてあげたい。「リアル」が恋しいこんな時代だからこそ、なおさらそう思う。

火災に見舞われたノートルダム大聖堂は 2024 年に再建するという。そして時を同じくしてパリ五輪も開催される。日々変化を遂げているであろうパリの音、香りを心行くまで肌で感じてみたい。

4 度目のパリ行きが実現するその日に向け、一刻も早いコロナの終息を祈りたい。歴史ある石畳に負けないう足腰も鍛え直さなければ。そして何より家族 3 人分の軍資金を貯めないと…。

縁あって当協会に加入させて頂いたことを機に、私の気持ちもどんどん高まってきた。

「いざ鎌倉」ならぬ「いざフランスへ！！」

遠藤 衛（会員）

## ミシュランガイドで旅を楽しむ

毎年、どこのレストランが星を取ったかで話題になるミシュランガイド。グルメ情報サイトは多数あれども不動の王者です。現在では日本各地域のガイド本も出されています。2017年には「宮城 特別版」が出版されました。宮城県内のレストラン・飲食店が276軒紹介されています。3つ星を取ったレストランはありませんでしたが、2つ星が1軒（寿司）、1つ星が12軒（フランス料理1 日本料理9 寿司2）あります。高級店だけでなく蕎麦や、居酒屋などの庶民的な店まで網羅されています。こんな田舎の店まで調査員が来たのかと驚くような場所にあるレストランまで紹介されています。



＜鮪 結委＞  
2つ星店

仙台市で2つ星を取った（鮪 結委）に行った時は寿司が芸術的な食であると実感させられました（残念ながら入店と同時に荷物を預けなければならなかったため写真はありません）。1つ星を取ったフランス料理のナクレも独創的で美味しい料理でした。そして星を取るといいう事が、いかに大変かと思知らされました。



オーガニックレストラン＜GENJIRO＞（宮城県加美町）  
ミシュラン掲載店 星なし

以前、Eテレの「ねほりん はほりん」という番組でミシュランの調査員が仕事について語られていました。星を取るレストランについての会議はフランス語で行われるそうです。ですから調査員になるにはフランス語が堪能であることと、本当に確かな味覚を持っていることが絶対条件。しかし家族にさえ調査員という事は秘密だそうです。

最近ではミシュラン新潟やミシュラン北陸も出版されました。北陸には3つ星を取った和食が1軒、2つ星が19軒、1つ星が49軒あります。新潟は2つ星が3軒、1つ星が18軒。日本で美食の地域という言葉は聞いたことはありませんが、人口比からすると北陸は美食地区と言っても過言ではないと思います。

コロナで海外旅行が難しくなった今、ミシュランガイドを手国内の美味しい店を食歩くというのも楽しそうです。  
佐藤淳子（会員）

## 久美子の歳時記～Jadore lesgateaux (12)

12月を迎え、吾妻の山々が雪化粧されて、いよいよ木枯らしが吹く寒い季節となりました。寒いヨーロッパではフランスと言わず、赤ワインに果実、スパイスなどを入れて温め頂きます。中世からある飲み物で、じんわりと身体が温まり、風邪しらずだとか。クリスマスシーズンにはクリスマスマーケットの屋台などで必ず売られ、冬の風物詩とも言われています。東京のクリスマスマーケットなどでも売られていますが、本場にいてみたいですね。

### ＜Vin chaud ヴァン ショ＞

決まったレシピはありませんが、難しい事はなしで残った赤ワインにお砂糖、水、スパイスなどをお好みで入れて沸騰寸前まで温めます。煮方で飛ぶアルコールが変わります。私は八角（アニス）やシナモン、クローブなどのスパイスにオレンジ、リンゴなどの果物を仕上げに入れるのが好きです。エキゾチックな香りで幸せな気分～デザート変わりにもお勧めです。

☆今夜の私のレシピはこちら。アルコールが苦手な方はお水で割って。お砂糖でもOK！

- 赤ワイン 150 cc    はちみつ 小さじ2
- アニス半分    シナモン少々    ショウガ少々
- オレンジふた切れ    リンゴ 1/4 個
- シナモンスティック

（料理教室受講生 本田久美子）

